

2015 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”

開催趣意書



平成27年2月

公益社団法人 日本獣医師会

趣 旨 と 目 的



私たちが飼育する様々な動物たちは、①動物性たんぱく質の供給源として、また、②家族の一員、生活の伴侶として国民生活に貢献するとともに、最近では、③補助犬等の介護・福祉分野や、学校での動物飼育を通じた教育分野に対する貢献、更には、④野生動物の生物多様性の確保・自然環境保全のモニターとしての役割や、⑤動物介在療法（アニマルセラピー）や災害救助犬の活躍といった人の健康や生命を守る役割を果たす等、国民にとって身近でかけがえのないものとして、その存在と位置づけが大きく変化し、クローズアップされてきています。

一方、獣医師は、動物に対する医療の提供はもとより、畜産物の生産から流通に至る安全性の確保と生産性の向上、人と動物の共通感染症の防疫、医薬品の開発・研究、獣医学の教育・研究、動物福祉・愛護、野生動物保護管理等、実に多岐に渡る役割を担い、その社会的責任と寄せられる期待はさらに高まっています。

2011年に発生し、甚大な被害をもたらした東日本大震災とそれに伴う福島第一原子力発電所の事故では、動物たちにも大きな被害がもたらされ、あらためて人々の暮らしのすぐそばにいたたくさんの動物たちに関心が寄せられました。被災動物の救護活動や動物に対する放射性物質の影響等の調査などの場面でも、獣医師に大きな期待がかけられています。

日本獣医師会は、こうした社会的要請や期待に応え、獣医師及び獣医療の質の向上をすすめていくためには国民的理解が不可欠であると考へ、動物の果たす社会的役割及びそれを飼育することの重要性、また、動物の健康を支える獣医師の役割とその活動の実情と多様性を広く国民の皆様に普及・啓発するイベントとして「動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”」を2007年から継続して毎年秋に開催しています。

このイベントはまた、獣医師の役割の理解向上を目的に世界獣医学協会(WVA)が各国での開催を提唱している「World Veterinary Day」について、WVA加盟獣医師会である日本獣医師会が開催する日本イベントとしての役割も併せ持っています。

日本獣医師会が獣医師会活動指針に掲げている「一動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。一」は、動物と人、及びそれを取り巻く環境(生態系)の健康は、相互につながっていると包括的に捉え、獣医療をはじめ関係する学術分野が密接に協力・連携して課題の解決にあたるべきとの考え方である、マンハッタン原則に基づく「One World, One Health」の理念に基づいています。

特に今日、高病原性鳥インフルエンザをはじめ多くの人と動物の共通感染症の流行制御への関心や食品の安全性確保に関する意識が高まる中、2012年10月に世界医師会(WMA)と世界獣医学協会(WVA)は、この「One World, One Health」の理念に基づき、協力関係を構築する旨の覚書を締結しました。

日本獣医師会においても、2013年11月に日本医師会との間で「公益社団法人日本医師会と公益社団法人日本獣医師会の学術協力の推進に関する協定書」を締結し、医師と獣医師の連携・協力のもと安全で安心な社会の構築に向け力を尽くしているところです。

牛や豚、鶏などのいわゆる産業動物、犬や猫などのいわゆる家庭動物等、全ての飼育動物の動物福祉・愛護に配慮された適正な飼養管理、

さらには野生動物の適正な保護管理による生物多様性の保全は、食の安全・安心を守ることや共通感染症の予防、豊かな自然環境の維持等、人の健康に深く寄与するものです。

このような人と動物が共存して生きる豊かな社会の構築は、広く国民の生活と社会全体の質の向上につながることから、これを一般に普及する動物感謝デー事業を、本会では公益法人としての普及啓発事業の中核として位置付けています。

また、動物福祉・愛護精神の一層の普及が、ひいては市民生活の向上と動物関連産業基盤全般の発展にも貢献することから、毎年多くの動物関連企業・団体・機関の皆様から幅広いご理解とご支援をいただいているところです。

つきましては、関係省庁・自治体・関係機関はじめ、動物関連企業・団体・機関の皆様におかれましては、動物感謝デーの趣旨をご理解の上、格別のご高配を賜りますようお願いいたします。

平成 27 年 2 月

2015 動物感謝デー in JAPAN 実行委員会

委員長 藏内 勇夫

(公益社団法人 日本獣医師会会長)

2015 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”

開 催 概 要

1 名 称

2015 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”

2 開催目的

獣医師、獣医療の果たすべき社会的役割とともに、動物の社会参加の促進のための動物の福祉と愛護精神の高揚を図り、また、広く一般市民に普及・啓発することにより、獣医事並びに動物の福祉及び適正飼養に関する施策推進を通じ、人と動物が共存する豊かで健全な社会を形成に寄与することを目的とする。

3 テーマ

「— 動物と人の健康は一つ。そして、それは地球の願い。—」

4 日 時

平成 27 年 10 月 3 日（土） 10：00～17：00

5 場 所

東京都立駒沢オリンピック公園 中央広場

6 主な開催内容

協賛・後援企業・団体・獣医学系大学等によるステージ企画及びブース展示・物品頒布企画、動物ふれあいコーナー（家庭動物・家畜とのふれあいと獣医師によるふれあい指導）、はたらく動物たち（補助犬、災害救助犬、警察犬等）のデモンストレーション、一日獣医師体験コーナー、獣医師の役割紹介、動物にまつわる有名人トークショー、獣医学生コーナー、獣医師による家庭動物の飼育相談、地方獣医師会による展示（動物医療関係展示、動物飼育関係展示、動物愛護関係展示、安全で質の高い畜産物の生産に係る展示）、等

7 来場予定人数

一般市民、小・中・高校生、獣医学系大学及び動物看護職養成機関在学生、
獣医療関係者（獣医師・動物看護職等）、動物関連業界関係者等 約 30,000 名

8 主 催

公益社団法人 日本獣医師会

〒107-0062 東京都港区南青山 1-1-1 新青山ビル西館 23 階

TEL : 03-3475-1601 FAX : 03-3475-1604

e-mail : doubutsu@nichiju.or.jp

URL : <http://nichiju.lin.gr.jp/>

9 後 援（前回実績）

農林水産省、環境省、厚生労働省、文部科学省、外務省、
国土交通省観光庁、内閣府食品安全委員会、東京都、世田谷区、目黒区、
公益社団法人日本動物病院協会、公益社団法人日本獣医学会、
一般社団法人日本動物看護職協会、
World Veterinary Association、ヒトと動物の関係学会、
A I P O（動物 I D 普及推進会議）

10 特別協賛（前回実績）

共立製薬株式会社

日本全薬工業株式会社

ロイヤルカナン ジャポン合同会社

トヨタ自動車株式会社、日本ヒルズ・コルゲート株式会社、
メリアル・ジャパン株式会社、アクアクララ株式会社、
株式会社ペットオフィス

11 協賛・協力団体（前回実績）

日本中央競馬会、公益社団法人全国農業共済協会、公益社団法人中央畜産会、
公益社団法人日本愛玩動物協会、公益社団法人日本装削蹄協会、
公益財団法人日本動物愛護協会、公益社団法人 Knots、
一般社団法人家庭動物愛護協会、一般社団法人ジャパンケネルクラブ、
一般財団法人全国緊急災害時動物救援本部、一般社団法人全国ペット協会、
一般社団法人どうぶつ家族の会、一般社団法人日本小動物獣医師会、
一般社団法人ペットフード協会、特定非営利活動法人聴導犬普及協会、特定非営
利活動法人野生動物救護獣医師協会、狂犬病臨床研究会、農場管理獣医師協会、
農場どないすんねん研究会 (NDK)、放鷹義塾、日本獣医学生協会、
北海道大学、帯広畜産大学、岩手大学、東京大学、東京農工大学、岐阜大学、
鳥取大学、山口大学、宮崎大学、鹿児島大学、大阪府立大学、酪農学園大学、
北里大学、日本獣医生命科学大学、日本大学、麻布大学、
学校法人シモヅノ学園/国際動物専門学校・大宮国際動物専門学校、
学校法人ヤマザキ学園/ヤマザキ学園大学、東京都立園芸高等学校、
全国 55 都道府県市獣医師会

このほか、獣医療・動物愛護福祉・畜産関連企業及び団体、学校飼育動物・動物
介在活動関係企業及び団体、動物医薬品関連企業及び団体、飼育動物関連企業及び
団体、報道関係、出版社など、動物及び獣医療に関係する企業・団体に幅広く協賛・
協力をいただく予定です。



公益社団法人

いのちみつめる。いのち育む。

日本獣医師会

[問合せ先]

公益社団法人日本獣医師会 動物感謝デー事務局 (担当: 駒田、松岡、原、長野)

〒107-0062 東京都港区南青山 1-1-1 新青山ビル西館 23 階

TEL : 03-3475-1601 FAX : 03-3475-1604 e-mail : doubutsu@nichiju.or.jp

イベントホームページURL : <http://doubutsukansha.jp/>